



「AだからB、でもC」

おとなが子どもを叱るときの決まり文句に、「口答えをするな!」というものがあります。お説教に対して「でも」「だから」というと、「反論するな!」って。

でも、口答えって、全然OKだと思います。まったく問題なし。目の前にあるものや頭に思い浮かんだものを「でも」「だけど」で、ひっくり返そうとするのは、ちっとも悪くありません。確かに、すんなりと「そうです」とうなずいた方が楽になる場面はたくさんあるでしょう。でも、そこでひっかかってしまうこと、素直にうなずけないこと。それを否定する必要なんてどこにもありません。むしろ、そういう口答えをしないまま大人になってしまうことの方が、本当はもっとヤバいんじゃないかな。

「順接」と「逆接」という言葉を知っていますか。わかりやすく言えば「だから」と「でも」の関係です。

「今日は雨だ。だから、外では遊べない」ーこれが「順接」

「今日は雨だ。でも、外で遊びたい」ーこれが「逆接」

大人の発想は基本的に順接です。「いい学校に入れないと将来苦労する。だから、一生懸命に勉強しなさい」・・・正しすぎて息が詰まりそうだから、「でも」で、反抗したくありませんか?

大人の言う「だから」を「先生が言ってるんだから」(これも順接です)と丸呑みして受け容れるのは、ちょっとつまらない。一度は「でも」と疑ってみてもいい。もちろん、疑ったあとで自分でも納得できたら、「やっぱりそうなんだな」と素直に受け容れるフェアな心も持っていてもらいたい。

ただし、「AだからB」という順接を「でも」でひっくり返して「AだからB、でもC」に変えるのは、そう簡単なことじゃない。逆接にはパワーと覚悟がいる。これを忘れてしまった「でも」は、ただの感情的な反発にすぎません。

例えば、「いい学校に入れないと将来苦労する。だから、一生懸命に勉強しなさい」から逃れる方法は2つあります。

1 つ目は、「AだからB」のAの部分「いい学校に入れないと将来苦労する」の中に踏み込んでみる。「いい学校」や「苦労する」そのものを疑ってみたらどうだろう。「でも、いい学校ってどんな学校のこと?偏差値の高い学校がいい学校なの?」「でも、苦労するってどういう意味な

の?お金稼げないことが苦労なの?」・・・うん、これならAがぐらっと揺らいでくれる。大人が子どもの口答えを嫌う本当の理由は、自分が正しいと信じている前提のAが揺るがせられてしまうのが怖いせいなのかもしれません。

2 つ目は、「AだからB」をひっくり返す「でも」につづくCを鍛えること。なぜ、自分が勉強をしたくないのかの理由に向き合うこと。「でも、勉強よりも大切なものが私にはあるんだ」でもいい。表面的な反発で終わってしまうより、こっちの方が一歩も二歩も踏み込んでいる。「でも、勉強よりも大切なものが私にはあるんだ。だから、いまは部活に打ち込みたいんだ」ー「AだからB、でもC、だからD」までいけば、それは強い。ただの否定ではなくて、前に進んでいるんだから。

幼い子どもの頃は、大人から与えられた「AだからB」をそのまま受け容れていけばよかった。だけど、成長するにしたがって「でも」が胸に湧いてくる。

【引用『みんなのなやみ』重松清(一部改編)】

コロナ禍の今、「AだからB」という順接を素直に受け入れなければならない機会が増えています。また、学校でも疑問に思ったことに対して質問したり、不安に思ったことを口にしたることもためらいがちになっています。また、自分はコロナ禍にうまく順応できているつもりでも、知らず知らずストレスが溜まっているかもしれません。

『コロナ対策のつもりが、過剰な対応になっていませんか?』

こんな時だからこそ、再度、自分の思い込みから来る言葉が差別につながっていないか、「誰か」のことではなく「自分事」として考えてみましょう。

そして、多くの大人でさえ生きづらさを感じているなか、中学生のみんなが生きづらさを感じていたり、不満や不安を抱えていることは当然のことだと思います。それを吐き出すことをためらわずに、少しでも気持ちが明るくなって欲しいのでアンケートをします。

「AだからB」で終わるのではなく、「でもC」というところまで吐き出してもOKです。



質問1 「みんなが安心して学校生活を送るためには、どのような取り組みができますか?」

質問2 「どのようなことをしたいですか?」

質問3 「コロナに関して不安に思っていることがありますか?」

もちろん、書いたことがすべて実現することは難しいです。でも、同じことを考えているんだな!と共有するだけでも元気が出ます。例えば、「自粛期間だからCAMPにはいけない、でも(大自然の中でマスクを取って思いっきり美味しい空気を吸いたい)」

